

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス対策の自粛制限が解除され、段々と客の活動が盛んになってきている。
	◎	通信会社（営業部長）	来客数の動き	・来客数は新型コロナウイルスの発生以前に戻っている。販売数も計画値を上回っている。
	◎	通信会社（社員）	お客様の様子	・飲食店の来客数が数か月前と比べ増えたと感じている。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・街中の人通りが少しずつ増えてきており、にぎやかになっている気がする。ただ、新型コロナウイルスの感染状況は微増傾向にあり、再拡大となれば、逆戻りする懸念があるので、不透明な状況がもうしばらく続く。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第3波もおおむね収まり、週末を中心に近県からの来街客、観光客も増えている。気候も春めいてきてにぎわいが出てきた。
	○	商店街（事務局長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が全国で解除となり、多くの人が外出を楽しめるようになったが、第4波が都会だけでなく、地方各地でも確認され始めており、予断を許さない状況はしばらく続く。
	○	百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・前年からの新型コロナウイルスの影響が一巡したことから、来客数については増加傾向にある。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が徐々に回復している。ただし、感染者数が増加した途端に来客数は減少する。自粛疲れによる半ば諦めのような来客数増加ではあるが、前年の売上を超えてきている。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活の準備に伴い、生活家電を中心に販売数が伸びている。
	○	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・1年前と比較すれば改善傾向にある。緊急事態宣言が発出されても、一時期のような外出自粛は減りつつある。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・やや客足は持ち直しつつある。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・2～3か月前と比べたら、やや回復気味で、乗車回数も上昇している。しかし、夜の繁華街は営業を縮小した店が増えたこともあり、客足はふだんの2割程度と聞いている。夜の景気は余り良くない。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・暖かくなって、人出も多少増えてきているが、夜については、飲みに出る人は若い子たちが多く、タクシーを余り利用しない客層であり、厳しいままである。しかし、お遍路客の仕事が多少出てきたので、冬よりは少し良くなっている。
	○	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・12月は新型コロナウイルスの感染拡大に対する警戒感から、感染予防意識が高く、人出は縮小傾向が続き、飲食業、サービス業を中心に景気は鈍化した。しかし、都市圏等の緊急事態宣言の解除や新型コロナウイルスに対する警戒感の低下、人の流れの活発化などで、販売量は増加で推移している。
	○	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスに対する警戒感が変わってきたのか、人が大分動くようになってきた。卒業、入学シーズンも重なり店が活気付いてきた。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・夜間営業の店舗におけるクラスター発生が収まって少し客が戻ってきた矢先に、大規模なクラスターが発生して、また人が来なくなった。人通りもなく夜の来客はない。
	□	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・春は歓送迎会や花見で会食をする機会が多い季節だが、昨春からの新型コロナウイルスの影響でイベントがなくなり、販売量が激減している。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前年からの新型コロナウイルス禍は一巡したが、感染者の推移は先のみえない状況であり、中食が定着している。
□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数の前年割れは続いているが、直近では若干増加した。しかし、気温上昇などの季節要因であり、景気とは結び付かないと考えている。	

	□	コンビニ（商品担当）	お客様の様子	・特別警戒期間などがあり、一般客の夜の通行も減っている印象を受ける。
	□	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルス禍で不透明な状況が続いている。再拡大したこともあり、来客数が少なく、そもそも外出していないのではないかと。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は前年と比較して107%程度となっているが、前年は新型コロナウイルスの影響が強く出ていたため、それを加味して考えれば、3か月前とそれほど変わらない水準で推移しており、業況が依然として厳しいことには変わらない。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車市場は受注台数と販売台数とともに前年並みの推移である。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・売上は前年と同水準であり、緊急事態宣言解除の効果はまだみえないが、人の移動が多くなれば上向きに転じることが予想される。
	□	その他小売 [ショッピングセンター]（副支配人）	来客数の動き	・今月下旬から新型コロナウイルス感染者が急増しており、戻りかけていた来客数に急ブレーキが掛かった。
	□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、少しずつ客足が戻りつつあったが、またクラスターが発生し、キャンセルが続出している。しばらくは同じような状態が続くと予想される。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が余り改善せず、Go To Travel キャンペーン再開も見通せないなか、業界は相当厳しい状況である。
	□	都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスへの警戒感が低下し、一般的には、景気は上向いていると感じている。しかし、第4波を警戒して、外出を控える動きが出ており、来客数は思ったほど伸びないと推測する。
	□	旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・少しずつではあるが、県民向けの割引等が復活したお陰で客が動き出しており、ビジネス需要も回復傾向にある。ただ、2019年度比で見れば、3月は30%程度である。
	□	設計事務所（所長）	それ以外	・第4波や大規模なクラスターの発生で、再開していた飲食店が再度休業に陥った。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスは、第4波、第5波と継続すると考えており、ワクチン効果もどこまで期待できるか予測できない。この状況が常態化したなかで、人の流れは変化し、地域や業種によってその影響も大きく異なることから、景気の先行きは極めて読みにくい。
	▲	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・外商については、例年と比べて、年度末の注文品の売上が少なくなっている。
	▲	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・前年の新型コロナウイルス需要でよく売れた商品を中心に、反動が大きい。
	▲	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・前々月から今月に掛けて大きな変化はなく、厳しい状態が続いている。当県は一時は新型コロナウイルスの感染者が非常に少なかったが、直近では少しずつ出てきており、その影響からか客足が鈍いと感じる。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・決算キャンペーンも終わり、来客数、販売量が減っている。
	▲	観光遊園地（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの特別警戒期間が延長されたことにより、サービス業関係の売上が減少している。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・今月は歓送迎会やイベントが中止になり影響が出ている。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・今月も、初旬は前年比同等であるが、中旬から大幅な減少に転じるという傾向が続いており、来客数が激減している。
企業動向	◎	税理士事務所	取引先の様子	・顧問先である飲食店の売上がかなり回復してきている。

関連 (四国)	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2月までの売上高は前年比でややマイナスであったが、3月に入り、全国的に人手が増えた関係なのか、雑貨小売店からの注文が増えている。観光地の小売店からの発注は相変わらず少ないが、当地域にある自社ショップには週末、県外ナンバーの車が増えており、徐々に地方の観光地にもぎわっていくように感じる。ただし、当社の都市部にある小売店は相変わらず人出が少なく、商売が成り立たない。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・若干ではあるが受注量が回復している。緊急事態宣言などの影響を再度受けなければ、徐々に回復していくと判断している。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・私が営む事業では、客からの引き合いが多く、成約件数もやや良くなっている。他の工場関係のメンテナンス等も順調といった情報が入ってくることから、景気は少し上向きになっているのではないかと。
	○	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・ワクチンを保管する保冷庫の需要が伸びて、一過性の特需に近いが、一部の事業体で受注量や販売量が改善している。
	○	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・主要客の海外向けの出荷数量が増加し、売上高が2か月連続で前年同月を上回った。
	○	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・都市部のナショナルスポンサーを中心に下期のCM投下は堅調で、3月の売上は地元だけでなく、全社で前年超えとなった。
	□	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・当県は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、下げ止まり感がある。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末になり納品が増え、売上が堅調である。また、補正予算や工期の平準化等の施策により、手持ち業務も確保されつつある。業界は公共事業量の安定、微増に加え、働き方改革や入札契約方式改善の施策効果が現れてきている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・官民とも、受注が低調である。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・悪い状態が続いているので、変化はない。
	▲	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・市場価格は近年のなかでは安値で推移しており、新型コロナウイルスの影響が少し出始めた前年と比べて、卸売価格は90%程度にとどまっている。また、この時期増える業務需要も低調であり、関連商品は80%程度と更に厳しい。
	▲	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・1～2月の受注量は前年7月以来の水準に戻ったが、生産量、売上量共に依然として回復せず、生産調整のための臨時休業は4月まで継続予定である。
	▲	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・第4四半期における取扱物量については発送、到着貨物共にいずれの月も前年実績を下回っている。新型コロナウイルス禍において消費者の意識や生活様式の変化がもたらした影響は大きく、不要不急の外出自粛に伴う電子商取引の拡大を受け、宅配便を利用したB to C物流の需要が増え続けている。一方で、販売店向けの小口積合便を利用したB to B物流の低迷が日増しに顕著となっており、運輸業界内でも取り扱う物流によって、収益格差が拡大している。
×	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で海外での商談が長引いており、需要は前年割れが続いている。	
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・2022年に卒業する大学生の新卒採用の会社説明会が3月に解禁され、学生の就職活動が本格的に始まったが、本学への求人件数は現時点で前年度とおおむね同じである。今後も、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う求人状況の動向等に注視していく必要がある。
	□	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・3月に入り求人数が増えてきている。新型コロナウイルスの影響は余りないように感じる。

□	人材派遣会社 (営業)	周辺企業の様子	・県内では、新型コロナウイルスの変異種株の影響により、過去最多の感染者数を記録した。いわゆる第4波の到来と位置づけ、繁華街の飲食業への自粛要請がまた強化された。飲食業全般で業務縮小や人員削減など経営の維持に必死な状況である。
□	人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・新型コロナウイルスの影響で派遣を終了する企業も出ているが、逆に人手不足の地域には求人があり景気は横ばいを保っている。
□	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	それ以外	・新型コロナウイルスによる景気低迷から回復傾向にあるように感じるが、広告業界を取り巻く環境は変わらず厳しい。
□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・大卒等求人の受理が始まっており、前年度と同程度の求人が見込まれている。
□	職業安定所(求人開発)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大による影響が、様々な産業で出ており、令和2年4月以降、事業所閉鎖や事業縮小等による人員整理を実施する事業所の発生が継続している。令和3年1月になって緊急事態宣言が発出され、都市部から当県への人の移動の激減による影響がしばらく続いている。第4波の襲来ともいわれており、回復するには時間が掛かる。
▲	求人情報誌(営業)	採用者数の動き	・製造業等の業種では求人数、採用者数共に横ばいだが、サービス業においては求人が大幅に減っている。そのため、全体で見ると景気は悪化している。
×	—	—	—